

5
令和2年

心の生涯学習誌
れいろう



〈れいろうカレッジ〉(今月のテーマ)

「私が正しい」にご用心

行方みどり

モラロジー研究所 生涯学習講師

綾部正哉

椎葉綾心塾 塾長

〈思春期の処方箋〉

どうする？

子どものゲーム・スマホ問題

花まる学習会 高濱正伸

思春期の処方箋

5



花まる学習会 代表
たかはままさのぶ
高濱正伸

昭和34(1959)年、熊本県人吉市生まれ。算数オリンピック作問委員。日本棋院理事。平成5年に「メシが食える大人に育てる」という理念のもと、作文・読書・思考力・野外体験を主軸にすえた学習塾「花まる学習会」を設立。子育てに悩む母親の救世主とも称される。『伸び続ける子が育つお母さんの習慣』(青春出版社)ほか著書多数。

反抗し、秘密を持ち、葛藤で心をヒリヒリさせている思春期の子どもたち。この時期の接し方について悩むすべてのお父さんお母さんに、「花まる学習会」の講師たちが心の処方箋をお届けします。

ゲームやスマホは悪なのか？

アナログな人間関係を

経験しないのはもったいない！

ないじゃないか」と言っていたら室内で体を使って遊ぶゲームが出たし、「外に出ない、家の中にもってしまおう」という意見に対して、スマートフォン(以下、スマホ)を使って、街中でモンスターを捕獲するゲームが生まれて、やっている人たちは皆歩いている。寒空の下でなぜこんなに人が歩いているの？と思ったら皆そのゲームをやっていたということも。「人とのつながりがないじゃないか」と言っていたのに、今では人とつながることができるゲームも多くなり、進化を遂げています。

私たちが危惧していたゲーム漬けの人たちの中から、プログラミングに目覚め、天才的プログラマーやシステムエンジニア(SE)として活躍している人も出てきています。それを受けて、私自身もゲームに対して単純に全否定ではないと感じるようになりました。しかしながら、一番言いたいのは、この先どんなに時代が進み技術が進化しても、「人間関係の中で生きていく」ということは変わらないということ。多くの人が、上司とうまくいかない、部下が言うことを聞いてくれない、妻に伝

わらない、分かり合えない、などという人間関係の壁に当たっていく。そこを考えたときに、「人間関係を築く力」がととでも大切で、幼少期にこそそこにつながる経験をたくさんしてほしいのです。子どもたちが助け合ったりけんかをしたり、仲直りしたり仲裁したりという濃密な人間関係の中で、学年や性別、国や言葉も違う人たちとなるべくたくさん遊んで、人間同士で共有するものや、肌感覚のような部分を身につけてほしいと思っています。

デジタル時代にこそ 欠かせないこと

ゲームよりも深刻なのはスマホなのではないでしょうか。「〇歳からスマホに触らせているけれど大丈夫か」。それについては、結果が出るのはこの先二十年後くらいでしょうか。〇歳からスマホに触っていた子が大人になってどうなるかなんて、まだ何も分かっていません。

その中で、どう選択するかはご両親のしだいですが、今この時点で言えるの



ゲームに反対？

子どもがゲームをすることにに関して、私は一貫して反対の立場でした。三十年ほど前、何人かの引きこもりの若者と交流を持ったのですが、その子たちを見るとほぼ男子で、みんなゲーム漬け。まだ引きこもりが社会的な問題になる前でしたが、これは大きな問題になるかもしれないと感じはじめたのがそのころです。ゲームは中毒性のあるものだと感じてからは、子どもにゲームはやってほしくないという一貫して伝えてきました。

東北大学の川島隆太教授も同じように「画面が子どもの時間を持つていくこと」に対して反対されていますが、少し前から、時代は大きく変わってきたように思います。

幼少期から培われる 人間関係を築く力

批判的な言葉を受けて、ゲームそのものがここ数年で驚異的なスピードで変わっています。「ゲームは体を動かさずは、「デジタルデトックス」の時間をどう作るかという部分です。一週間なり一日の中で、「この時間は触りたくても触れない」という時間を作る。これについては、世界保健機関(WHO)も「ゲーム依存は中毒、精神的な疾患だ」と言っています。特に男子は中毒性があるので注意が必要です。

私が尊敬する若者は、「アナログにつながるようなスマホの使い方をすればいいのではないか」と言っていました。というのも、大人がほぼ全員、スマホが必要な生活を送っているのだから、これからの時代、スマホを使わせないようにはするのは無理なのです。その中で子どもに触らせるときに、アナログの活動に着地するデジタルの使い方を考えていくということ。同じスマホを使うにしても、「おばあちゃん、こっち向いてー」と写真を撮って、「ほら、きれいに写ったよ」というのはいい時間だと思います。

このようにスマホと付き合い合っていくことが、混迷の現代、どんどん進化する時代における一つの「正解」ではないかと思っています。

